



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階  
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>主な  
内容

- 2~4面 朝日がん大賞・日本対がん協会賞 受賞者の横顔
- 5面 がん検診デジタルクーポン無料キャンペーン 9月スタート
- 6~7面 2019年全国がん登録 年齢階級別・主な部位別の罹患数

2022年度  
朝日がん大賞

## 祖父江友孝・大阪大学大学院医学系研究科教授 「疫学データに基づく日本のがん対策への貢献」

日本対がん協会賞は3個人と1団体へ

公益財団法人日本対がん協会は、9月のがん征圧月間に合わせ、2022年度の朝日がん大賞と日本対がん協会賞の受賞者を決定した。朝日がん大賞には、疫学データに基づき、日本のがん対策に貢献した大阪大学大学院医学系研究科教授の祖父江友孝氏(63)が選ばれた。日本対がん協会賞には個人の部で3人、団体の部で1団体が選ばれた。表彰式は9月2日、津市で開かれるがん征圧全国大会三重大会でおこなわれる。=2~4面に関連記事

祖父江氏は、疫学データに基づく日本のがん対策への貢献が評価された。第3次対がん10カ年総合戦略事業の中で、がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究を担当するとともに、2004~2013年に「がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究」班の主任研究者として地域がん登録を国として統括する体制を整えた。地域で異なる登録システムは標準化され、2016年から始まった全国がん登録の基盤づくりにつながった。がん検診の有効性評価の研究にも関わり、2003年からがん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班の主任研究者として、ガイドライン作成のための体制づくりに尽力した。ガイドライン作成の体制基盤は国立がん研究センターに引き継がれ、厚生労働省のがん検診方法の導入・変更の際に必要な科学的根拠の資料として活用されている。さらに、がん統計に関するポータルサイトを国立がん研究センターに開設し、研究者やメディアに広く活用されている。また、子宮頸がんの予防に有効とされるHPVワクチンの定

期接種について、積極的勧奨が休止していた2015年に研究代表者として取り組んだ全国疫学調査は、2022年度からの積極的勧奨の再開に影響を与えた。がん統計情報やがん検診ガイドライン作成のための研究体制基盤整備などに尽力し、日本のがん対策を決めるための礎となる体制づくりの要として大きな役割を果たした。

日本対がん協会賞の個人の部は、横浜市の石川町内科クリニック院長の渡會伸治氏(66)、三重県健康管理事業センター理事兼診療所長の中井昌弘氏(65)、栃木県立がんセンター名誉理事長の菱沼正一氏(68)が選ばれた。いずれも地域でのがん予防やがん検診の推進、がん治療、患者支援などの業績が評価された。

団体の部は、特定非営利活動法人「Hope Tree(ホープ・ツリー)」（大沢かおり代表理事）が選ばれた。がん治療の現場で見過ごされがちな、患者の子どもを支える活動を続けている。欧米の先進事例を学び、研修会や子どもが参加するプログラムなどを展開している。

日本対がん協会賞は、協会設立10周年の1968年、がん征圧運動の一層の高揚を図る目的で創設された。対がん活動に顕著な功績のあった個人と団体、長年にわたり地道な努力

を重ねてきた個人と団体などに贈られる。また、朝日がん大賞は、日本対がん協会賞の特別賞として2001年に朝日新聞社の協力で創設。がん予防を対象に、将来性のある研究も発掘、医療機器類の研究・開発、患者支援などで優れた実績をあげて社会に貢献し、かつ、第一線で活躍する個人・団体などに贈られる。



2022年度の選考委員は次の通り。

委員長 垣添忠生・日本対がん協会会長▽副委員長 武藤徹一郎・がん研有明病院名誉院長▽選考委員(50音順) 梅田正行・日本対がん協会理事長、大内憲明・東北大学大学院医学系研究科客員教授・東北大学名誉教授、津金昌一郎・医薬基盤・健康・栄養研究所理事兼国立健康・栄養研究所長、高山裕喜・朝日新聞東京本社くらし報道部長、松本吉郎・日本医師会会長。

### 2022年度

#### 日本対がん協会賞・朝日がん大賞の受賞者

##### 朝日がん大賞

**祖父江 友孝** (そぶえ・ともたか) 63歳  
大阪大学大学院医学系研究科  
社会医学講座 環境医学 教授

##### 日本対がん協会賞

###### 個人の部

**渡會 伸治** (とごう・しんじ) 66歳  
石川町内科クリニック 院長

**中井 昌弘** (なかい・まさひろ) 65歳  
三重県健康管理事業センター理事 兼 診療所長

**菱沼 正一** (ひしぬま・しょういち) 68歳  
栃木県立がんセンター 名誉理事長

###### 団体の部

**特定非営利活動法人Hope Tree**  
(大沢かおり代表理事)

※敬称略、年齢は9月1日現在



# 疫学データに基づく 日本のがん対策への貢献

祖父江友孝・大阪大学大学院医学系研究科教授

科学的根拠に基づき、国のがん検診ガイドラインの作成で中心的役割を果たすなど、日本のがん対策に大きく貢献してきた。朝日がん大賞の受賞を聞き、「あまり賞には縁がなかったので意外。若い人が対象の奨励賞なども受けておらず、非常に稀有な機会でありたい」と語った。

現在、母校である大阪大学の大学院医学系研究科教授を務める。担当する社会医学講座環境医学教室は、疫学と利益・不利益バランスの考え方をもとに、疾病対策のための科学的根拠の提示をめざしている。また、国立がん研究センター「がん対策研究所」の副所長、厚生労働省のがん検診のあり方に関する検討会の構成員でもある。

がん疫学の道に入るきっかけは1983年、大阪大学医学部を卒業後、大阪府立成人病センターで調査部に配属されたことだった。調査部は、国内のがん罹患率の統計をまとめており、がん専門の疫学調査が業務となった。当時、国際がん研究機関の奨学金を受け、米国のジョーンズ・ホプキンス大学で公衆衛生学を学ぶ機会を得た。米国で公衆衛生学は社会医学の一つとして確立しており、日本とは状況が異なっていた。日本では当時、がん検診の有効性をどう評価するか、科学的な証拠が必要とされていた。その方法論を学ぶため、米国の現場を視察し、専門家に学んだ。

帰国後、国立がんセンター(当時)が担うがん統計の立ち上げに関わった。当時、国内のがん死亡数は愛知県がんセンターがまとめ、がん罹患率は大阪府立成人病センターがまとめた。米国のように国立がんセンターが国のがん統計に関わることはなかった。ところが、愛知県の担当者の退職

に伴い、がん死亡数の統計を国立がんセンターが引き継ぐことになった。加えて、全国の罹患率集計を大阪から国立がんセンターに移管することも決まり、国立がんセンターが死亡数と罹患率をまとめる体制が整った。また、がん情報のサイトも国立がんセンターに開設され、最新のがん情報はサイトから得られるようにした。「当時、各方面から人材が集まった結果」と振り返る。

がん検診では、有効性評価の研究まとめ(久道班)の更新が必要だと考えた。がん検診によって、がん死亡率が確実に減少するのか、国内外の研究を探し、科学的に検討した上で、日本のがん検診の方法を検証し、対策型検診として「推奨」できるものを「がん検診ガイドライン」としてまとめた。しかし、当時は「これが研究か」「他人の禪で相撲を取っている」との批判も受けた。論文やデータを読み解き、行政施策につなげる仕組みは、海外では確立していたが、日本ではまだ定着していなかった。

がん検診をめぐるのは、国内で一定割合を占める職域のがん検診が課題になっている。現在のがん検診ガイドラインの適用範囲は市町村で、職域は適用外。そのため、職域を含む統一したガイドラインが必要だと考えている。法的な位置づけが理想だが、運用面での適用も検討したいという。

これまでに東京電力福島第一原発事故やHPVワクチンに関する疫学調査などにも取り組んできた。福島の甲状腺検査のように、専門家が考えることと、一般の人が考えることにはギャップがある。がん検診では「過剰診断」の問題だ。精度が高い検査は、がん発見率が高くなる一方、死亡に至らない前がん病変や極早期のがんが見つかる可



祖父江 友孝 (そぶえ・ともたか)

1959年愛知県生まれ。小学生の時に関西へ。1983年、大阪大学医学部卒業。医学博士。専門はがん疫学・公衆衛生学。大学卒業後、大阪府立成人病センター調査部へ。1994年4月から、国立がんセンター(当時)で研究所がん情報研究部室長、がん予防検診研究センター部長、がん対策情報センターがん統計研究部長など。2012年から、母校の大学院医学系研究科社会医学講座環境医学教室の教授。2021年9月、国立がん研究センターがん対策研究所の設置に伴い、副所長を兼務する。国のがん検診のあり方に関する検討委員会の構成員も務めている。

能性がある。また、高齢者や重篤な合併症を有する人が罹患者になることも考えられる。こうした場合、がん検診の目的である「がん死亡率の減少」につながらず、逆に受診者の心身への負担(不利益)が増す恐れがある。医療関係者でも理解している人は少ない。

今後、そうしたギャップを埋める役割を果たしたい、とも考えている。「耳障りの悪いこと、不利益なこと言うとは何かと思うかもしれないが、そこを分かってももらえないと、正しい判断が進まない」と話している。

## 日本対がん協会賞 個人の部

### 第一線で培った技術・経験を生かし、地域の医療に貢献

渡會 伸治(とごう・しんじ)66歳 石川町内科クリニック院長



渡會 伸治氏

消化器外科医として、横浜市立大学附属病院などの第一線で5,000例を超えるがん患者と向き合ってきた。その経験を生かし、地域医療に貢献している。日本対がん協会賞の受賞について、「このような賞を得られて、大変光栄です」と語っている。

1980年に横浜市立大学医学部を卒業後、同大学附属病院第二外科を中心に横浜掖済会病院、国立横浜病院(現横浜医療センター)などで勤務。主に消化管悪性疾患(胃がん、大腸がん

と)、肝胆すい疾患(肝炎、肝がん、胆石症、胆管がん、すいがん、すい炎など)の検査・治療をおこなってきた。その後、2008年に横浜掖済会病院の消化器病センター長となり、がん以外の良性疾患(肝炎、脂肪肝、すい炎など)を診療し、生活習慣病(高血圧、高脂血症、糖尿病など)も診てきた。治療に関わった患者はできるだけ自分が診療を続けたい、患者が気軽に相談できる場を提供したいとの思いから、2013年、横浜市の中華街に隣接する場所にクリニックを開業した。

横浜掖済会病院をはじめとする近隣

の病院や開業医とも連携し、経済的に困窮している地元の人たちや、多くの船員・港湾関係者らを診察してきた。エコー(超音波)検査やCT検査も導入し、これまでに多くの早期がんを見つけ出した。がん種や進行度合いによっては自院で内視鏡的治療を実施したり、総合病院での治療に切り替えたりしている。また、近隣の病院、開業医との臨床研究に取り組んだり、患者向けの講演会を開催したりするなど、長年培ってきた経験や理論を生かし、地域医療の底上げや患者支援に尽力している。

### がん検診の診断技術や精度管理の向上、正しい知識の普及に尽力

中井 昌弘(なかい・まさひろ)65歳 三重県健康管理事業センター理事兼診療所長



中井 昌弘氏

2005年度以降、三重県健康管理事業センターが実施している市町、職域での健康診査、がん検診のレントゲン、内視鏡、超音波検査、心電図検査などの診断に携わっている。がんの早期発見とともに、がんに関する正しい知識の普及のため、自治体や事業所の担当者を対象にした研修、相談の機会を設けるなど啓発にも力を注いできた。

国立名古屋病院(現名古屋医療センター)を経て、1987年から三重大学医

学部第一外科と関連病院外科で約23年間勤務した。当時は消化器外科(肝胆膵)が専門だったが、2005年に三重県健康管理事業センターの診療所副所長に就くと、さまざまな疾患への対応が求められた。同センターは日本対がん協会、結核予防会、予防医学事業中央会の支部であり、がんの早期発見のための講習会の実施、結核予防の活動などに公衆衛生の向上に努めた。しかし、がん検診の評価や精度管理は国内でも確立されておらず、国も対応に乗り出していた。同センターとしては精

度管理の向上をめざし、人材育成や設備に力を入れた。知識や技術を高め、学会で発表もした。「国の流れもあったが、職員も勉強した」と振り返る。

自身は、厚生労働省の「乳がん検診ガイドライン2013」の作成委員を務め、現在も各種講習会の講師などとして全国レベルでの医療技術の普及にも努めている。日本対がん協会賞の受賞に対し、「大変名誉ある賞であり、受賞を励みに乳がんをはじめとするがん検診の精度管理の向上に努めたい」と抱負を述べた。

### がん医療の質の向上、AYA世代の患者支援など地域のがん対策に貢献

菱沼 正一(ひしぬま・しょういち)68歳 栃木県立がんセンター名誉理事長



菱沼 正一氏

すい臓を中心とした消化器の外科手術に熟練し、多くの症例の手術を手がけ、栃木県内のがん治療の進展に貢献した。1978年に慶応大学医学部を卒業後、済生会宇都宮病院外科、慶大病院一般・消化器外科などを経て、恩師からの誘いもあって1986年に栃木県立がんセンター外科へ。すい臓がんの治療では、血管をとる技術を駆使して患部を切除する手術をおこなってきた。症例は数百に上る。難易度の高

い手術に挑戦する気持ちも強かった。

2018年から栃木県立がんセンター理事兼センター長に就任。都道府県がん診療連携拠点病院の長として、2019年度にPDCAサイクル部会を創設し、がん医療の均てん化、質の向上を図った。県内の主な病院でも県立がんセンターと同様な治療ができるようになった。

また、同じ年に県がん・生殖医療ネットワークを設立し、県内の小児・AYA世代等のがん患者の支援体制づくりにも努めた。がんが見つかる治療に関心が向きがちだが、若い世代の

患者が将来、子どもを産み育てるといふ希望をもって治療に臨めるよう、妊孕性温存療法の支援や治療費の助成事業推進に寄与した。また、栃木県がん対策推進協議会長として、県がん対策推進計画の推進など、栃木県のがん対策に大きく貢献した。

日本対がん協会賞を受けて、「大変光栄に思います。がんセンターに勤務して三十数年、自らの使命と思い、すい臓がんを中心に一貫してがん治療に携わってきた。そのご褒美をもらえたと考えています」と喜びを語った。

日本対がん協会賞 団体の部

がんになった親と子どもを支える活動 医療従事者へアドバイスも

特定非営利活動法人 Hope Tree (大沢かおり代表理事)



大沢かおり 代表理事

がん治療の現場で見過ごされがちな、親ががんになった子どもを支える活動を続ける。

医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、医師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、看護師ら有志が2008年に結成し、全国に活動の輪が広がっている。

きっかけは2007年、代表理事の大沢かおりさん(55)が乳がん患者会の一員として訪米し、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターや米国対がん協会などで学ぶ機会を得たことだった。当時、医療ソーシャルワーカーとして、がんで親を亡くす子どものケアに悩んでいた大沢さんは、MDアンダーソンのマーサ・アッシュブレナー氏

に助言を求めた。さらに翌年、同氏を日本に招いて講演会を開いた。親ががんになった子どもの支援に悩む医療関係者が多く参加し、それが団体結成につながった。

2010年からは、がんになった親がいる子どものためのグループワーク「CLIMB」プログラムのワークショップを開催。全国どこでも支援が届くよう、医療関係者向けの養成講座、各種ワークショップを開き、それぞれの医療機関へと取り組みが広がっている。

また、2009年に開設したホームページ(<https://hope-tree.jp/>)では、医療関係者の日々の業務、がん患者やその子どもたちが日ごろの生活で抱えている悩みや疑問に対応しようと、関



Hope Treeのホームページ

連情報を公開している。

大沢さんは「本当にびっくりした。地道にがんばってきたことを見てくれている人がいることをうれしく思います」と喜びを語った。今後、がんになった親を対象にしたCLIMBプログラムにも取り組む。



2022年度 グループ支部永年勤続表彰(敬称略)

24団体、68人



- ◇北海道対がん協会  
吉田直美、中畑あゆみ
  - ◇青森県総合健診センター  
岩間一徳、吉田優子、佐々木珠恵、  
工藤清香、小野由香子、津川南美、  
福土邦明、工藤泰裕、高村和嗣、  
須賀千春、館山大輔、坂本友美、  
佐々木あすか、橋本琢也
  - ◇岩手県対がん協会  
古川諭
  - ◇宮城県対がん協会  
高橋尚美、上路麻美、小野千恵美
  - ◇茨城県総合健診協会  
舟橋美香
  - ◇ちば県民保健予防財団  
小松麻里子、金子洋一、鈴木俊一、  
伊藤里美
  - ◇長野県健康づくり事業団  
蔵之内利絵、瀧澤典子、小林泉江、  
城倉理恵
- ◇富山県健康づくり財団  
廣川奈己
  - ◇三重県健康管理事業センター  
三原久美子、馬場恵子、原智美
  - ◇滋賀県健康づくり財団  
梅森かおり
  - ◇兵庫県健康財団  
川邊貴子、酒井香名
  - ◇広島県地域保健医療推進機構  
新納京子、遠藤紀子、林尚美
  - ◇山口県予防保健協会  
齋藤紀映
  - ◇とくしま未来健康づくり機構  
本田浩仁、三井裕子、遠藤千晴
  - ◇香川県総合健診協会  
山口大輔
  - ◇愛媛県総合保健協会  
天野夢美、小山恵理子、森山雅弘、  
西村龍一
- ◇高知県総合保健協会  
岡村真弥
  - ◇ふくおか公衆衛生推進機構  
石橋伸也、谷口聖子、伊藤克之、  
上田美幸、森田覚文、嘉村真弓
  - ◇佐賀県健康づくり財団  
小松美紀、川崎勇樹
  - ◇長崎県健康事業団  
三根秀樹、森木浩美、中島梨絵、  
峯大貴
  - ◇熊本県総合保健センター  
北村伸雄、大山智徳、左座沙織、  
坂本香織
  - ◇大分県地域保健支援センター  
鈴木雅美
  - ◇鹿児島県民総合保健センター  
横手恵梨香
  - ◇沖縄県健康づくり財団  
喜納正幸

がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています  
時間は当分の間、10:00~13:00 15:00~18:00

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します



社労士による電話相談

態勢縮小のため  
電話がつながりにくい  
ことがあります。  
何卒ご了承ください

9月から  
開始

がん検診デジタルクーポン無料キャンペーン

5つの検診に拡大  
(胃、肺、大腸、乳、子宮頸)

1万枚発行

公益財団法人日本対がん協会(垣添忠生会長)は9月1日から12月31日まで「がん検診デジタルクーポン無料キャンペーン」を展開する。4月から実施した乳がん、子宮頸がんの2つのがん検診に、大腸がん、肺がん、胃がんを加えて対象を5つのがん検診に拡大し、計1万枚の無料クーポンを配布する予定だ。キャンペーンでは、がん検診の受診対象者に限らず、対象外の人を対象者であるパートナーや家族へのプレゼントとしても応募できる。

日本では、2人に1人が生涯でがん罹患すると言われており、毎年約100万人が新たにがんと診断されている。また、がんは1981年から死因の第1位であり、2020年人口動態統計(確定数)によると、同年はがんで37万8385人が亡くなった。

一方、医療技術の進展により、がんは検診で早期に発見できれば、治療の選択肢が多く、病状が回復する可能性も高くなっている。厚生労働省は一定の年齢の人を対象に、がんによる死亡率を下げるという科学的根拠に基づき、5つのがん検診(胃、肺、大腸、乳、子宮頸)を推奨し、受診を呼びかけている。しかし、多くのがん検診の受診率は目標である50%に達していない。

日本対がん協会のグループ支部への調査では、2021年の5つのがん検診の受診者数は537万6,513人。国内で新型コロナウイルスの感染拡大が始まった2020年の

435万4,352人(前年比27.4%減)から102万2,161人(23.5%)増えたが、2019年の599万4,398人と比べると、61万7,885人(10.3%)下回った。コロナ禍による受診控えが長引けば、早期がんの発見は難しくなり、進行がんが増え、治療後の病状への影響が心配される。

がん検診は、実施する自治体によって、無料の場合もあれば、少額の自己負担が必要な場合もある。無料で受診できるクーポンの発行で受診者の経済的負担を減らすとともに、無料クーポンのデジタル化でスマホやPCを使って簡単に入手できるようになる。今回の無料クーポンは、キャンペーンの趣旨に賛同した株式会社千趣会、住友生命保険相互会社、エフエムジー&ミッション株式会社、株式会社クレハからの寄付をもとに発行される。日本対がん協会は、キャンペーンを展開することで、受診率向上につながればと期待している。



利用希望者は、日本対がん協会または賛同企業のサイトを経由した申し込みサイトで必要事項を入力するだけ。スマホやPC経由で応募した人は、先着順(一部は抽選)でデジタルクーポンを入手し、日本対がん協会のグループ支部をはじめとした全国の提携先検診施設で検診を無料で受けられる。手数料等の費用は一切かからない。がん検診対象者に限らず、家族やパートナーの方が申し込み、がん検診対象者の方へ贈ることもできる。

「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」という目標を達成するため、日本対がん協会は賛同企業と共に定期的ながん検診の受診を応援していく。

キャンペーンURL : <https://www.jcancer.jp/dcoupon/> (9月1日開設)

## デジタルクーポンのフロー



# 男性の肺、胃は60代近くから急増、 女性の乳房は40代、70代で2つのピーク

## 2019年全国がん登録 年齢階級別罹患数から

厚生労働省が公表した2019年の全国がん登録罹患数・率報告によると、この年に新たにがん(上皮内がんを除く)と診断された人は99万9,075人。男性は前立腺、大腸、胃、肺、肝・胆管の順で罹患が多く、女性は乳房、大腸、肺、胃、子宮の順で多かった。上位5部位が全がんに占める割合は、男性が66.7%、女性が63.6%となっている。

年齢階級別に罹患数の占める割合は、45歳未満が4.2%、45~64歳が20.3%、65~74歳が30.1%、75歳以上が45.4%だった。また、全がんの年齢階級別罹患率は、男性が40歳未満で人口10万人あたり100未満と低く、60歳以上で1,000を超えた。女性は30歳未満が人口10万人あたり100未満、65歳以上で1,000を超えた。

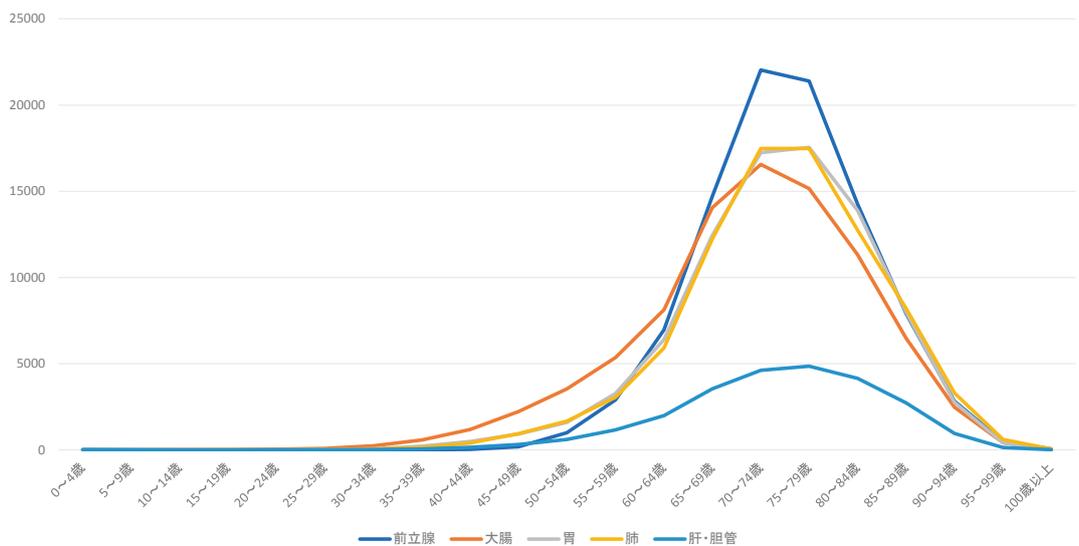
5歳ごとの年齢階級別に、上位5部位の罹患数の推移を見ると、男性は30歳代から大腸がんが増え始め、60~64歳までは最も罹患数が多かった。前立腺がんは40歳代までは上位5部位の中で最も罹患数が少なかったが、50歳代から増え始め、65歳以上で罹患数が最も多くなっている。胃がんと肺がんは65~69歳から罹患数が増加し、それぞれ2位、3位となった。肺がんは45~49歳から罹患数が増え始

め、75~79歳で罹患数はピークになるが、85~89歳以上での罹患数は1位となっている。肝・胆管がんの罹患数の推移は、上位4部位と比べて緩やかで、75~79歳がピークとなっている。

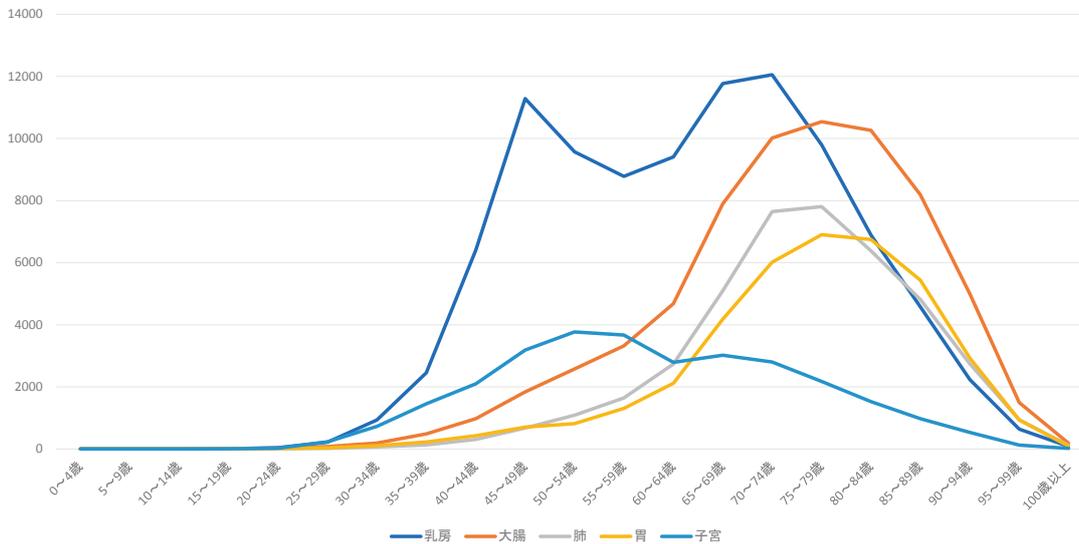
女性の上位5部位では、乳がんの罹患数が70~74歳まで最も多かった。乳がんは30~34歳から急増し、45~49歳で罹患数は最初のピークとなった。その後は減少しているが、60歳代から再び増加に転じ、70~74歳で2回目のピークとなっている。子宮

がんの罹患数は55~59歳までは2位となっている。このうち、45歳未満では子宮頸がんの占める割合が多く、45歳以上では子宮体がんの割合が多かった。大腸がんは40~45歳から罹患数が増え始め、60~64歳で子宮がんの罹患数を抜いて2位に。その後、75~79歳で罹患数がピークになるとともに、乳がんを抜いて1位になっている。肺がんと胃がんの罹患数は、似たような推移となり、どちらも50歳代から増え始め、75~79歳で罹患数がピークとなっている。

年齢階級別罹患数の推移 (男性：上位5位)



年齢階級別罹患数の推移 (女性：上位5位)



## 年齢階級別罹患数（男女別・上位10位）

## 男性

部位	前立腺	大腸 (直腸/ 結腸)	胃	肺	肝・胆管	すい臓	食道	腎・尿路 (膀胱除 く)	悪性 リンパ腫	膀胱	全部位
総数	94,748	87,872	85,325	84,325	25,339	22,285	21,719	20,678	19,311	17,498	566,460
0～4歳	2	0	5	0	19	1	0	16	39	2	483
5～9歳	0	0	1	0	7	0	0	3	53	0	303
10～14歳	1	7	0	0	2	2	1	4	67	0	365
15～19歳	1	10	2	7	4	6	1	1	69	2	474
20～24歳	1	38	11	13	9	6	1	6	98	3	701
25～29歳	1	89	23	24	11	13	3	27	103	6	1,014
30～34歳	0	236	67	55	19	37	5	56	144	7	1,653
35～39歳	5	570	220	139	51	75	38	168	243	25	2,915
40～44歳	36	1,179	488	397	154	179	95	393	339	62	5,458
45～49歳	184	2,222	921	944	313	397	259	689	544	182	9,647
50～54歳	1,002	3,543	1,592	1,670	605	670	637	1,036	701	322	15,388
55～59歳	2,901	5,356	3,274	3,048	1,165	1,078	1,222	1,365	1,105	579	25,924
60～64歳	6,966	8,127	6,402	5,914	1,982	1,773	2,308	1,986	1,692	1,109	44,918
65～69歳	14,703	14,045	12,443	12,236	3,542	3,196	3,795	3,057	2,481	2,251	82,845
70～74歳	22,035	16,562	17,243	17,477	4,612	4,314	4,682	3,671	3,225	3,147	110,569
75～79歳	21,390	15,153	17,543	17,486	4,859	4,194	4,321	3,328	3,239	3,288	108,710
80～84歳	14,256	11,320	13,879	12,741	4,151	3,306	2,601	2,601	2,779	2,921	81,995
85～89歳	7,910	6,478	7,996	8,207	2,729	2,043	1,371	1,556	1,686	2,301	50,163
90～94歳	2,822	2,480	2,757	3,304	955	848	327	616	589	1,077	19,267
95～99歳	481	420	417	612	142	137	48	88	107	191	3,335
100歳以上	51	37	41	51	8	10	4	11	8	23	333
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 女性

部位	乳房	大腸 (直腸/ 結腸)	肺	胃	子宮	すい臓	悪性 リンパ腫	甲状腺	卵巣	皮膚	全部位
総数	97,142	67,753	42,221	38,994	29,136	21,579	17,325	13,892	13,388	12,432	432,607
0～4歳	0	0	1	2	0	1	34	1	5	0	443
5～9歳	0	2	1	1	0	3	22	1	22	0	251
10～14歳	2	2	0	0	0	7	37	17	29	4	272
15～19歳	7	6	4	4	5	18	51	94	95	14	492
20～24歳	42	25	9	16	26	20	76	251	188	21	920
25～29歳	217	78	21	36	232	27	99	388	226	39	1,669
30～34歳	933	189	63	107	725	53	136	541	335	74	3,637
35～39歳	2,455	484	130	228	1,453	63	205	825	488	104	7,149
40～44歳	6,406	978	306	424	2,099	159	258	1,102	838	161	14,057
45～49歳	11,287	1,836	675	703	3,187	286	487	1,251	1,422	264	23,446
50～54歳	9,571	2,577	1,090	818	3,770	430	646	1,256	1,599	315	24,688
55～59歳	8,777	3,321	1,642	1,308	3,670	777	952	1,124	1,372	367	26,705
60～64歳	9,407	4,680	2,734	2,117	2,792	1,162	1,393	1,183	1,323	564	32,048
65～69歳	11,767	7,895	5,096	4,176	3,017	2,106	2,069	1,443	1,493	887	47,765
70～74歳	12,052	10,014	7,644	6,015	2,802	3,222	2,657	1,702	1,299	1,398	59,051
75～79歳	9,795	10,539	7,808	6,902	2,173	3,790	2,794	1,242	1,018	1,728	59,780
80～84歳	6,888	10,265	6,384	6,748	1,527	3,676	2,443	754	740	1,861	53,356
85～89歳	4,581	8,187	4,816	5,439	978	3,242	1,821	422	537	2,070	42,907
90～94歳	2,233	4,994	2,740	2,923	533	1,859	915	220	269	1,650	24,994
95～99歳	637	1,494	940	935	126	600	207	63	79	763	7,939
100歳以上	85	187	117	92	21	78	23	11	11	148	1,037
不詳	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

\*平成31年全国がん登録罹患数・率報告(厚生労働省健康局がん・疾病対策課)より作成

\*上皮内がんを除く。総数は年齢不詳を含む。

## 2020年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆大腸がん

## ■男女合計

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果					精検受診率 (C/B)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)
				がん(D)	がん疑い	がん以外の疾患	異常なし	その他の結果			
北海道	100,019	8,050	6,202	262	4	4,403	1,533	0	77.04%	0.26%	3.25%
青森	94,777	4,938	3,753	131	27	2,711	746	138	76.00%	0.14%	2.65%
岩手	109,374	5,907	4,742	243	0	3,277	1,218	4	80.28%	0.22%	4.11%
宮城	66,498	3,333	2,944	183	0	1,923	820	18	88.33%	0.28%	5.49%
秋田	53,103	3,414	2,668	110	19	1,695	833	11	78.15%	0.21%	3.22%
山形	127,069	7,192	5,291	177	25	3,115	1,974	0	73.57%	0.14%	2.46%
福島	106,212	7,068	4,686	103	8	2,914	1,485	119	66.30%	0.10%	1.46%
茨城	118,360	8,532	6,108	181	35	4,579	1,183	130	71.59%	0.15%	2.12%
栃木	59,362	3,182	2,314	84	28	1,697	505	0	72.72%	0.14%	2.64%
群馬	18,266	754	589	24	0	426	139	0	78.12%	0.13%	3.18%
埼玉	16,261	992	556	26	1	387	118	24	56.05%	0.16%	2.62%
千葉	98,412	6,515	3,099	76	5	2,268	749	1	47.57%	0.08%	1.17%
新潟	109,338	6,435	4,953	291	21	2,902	1,567	288	76.97%	0.27%	4.52%
山梨	14,731	707	468	19	4	298	116	31	66.20%	0.13%	2.69%
長野	80,864	4,800	2,546	81	0	1,648	696	121	53.04%	0.10%	1.69%
富山	27,443	1,522	1,001	41	0	709	251	0	65.77%	0.15%	2.69%
石川	21,017	1,328	916	35	0	346	196	339	68.98%	0.17%	2.64%
福井	46,046	2,236	1,532	73	5	1,143	311	0	68.52%	0.16%	3.26%
愛知	7,388	431	181	5	1	114	57	4	42.00%	0.07%	1.16%
三重	24,451	1,382	758	30	4	463	259	2	54.85%	0.12%	2.17%
滋賀	9,115	596	365	9	0	272	78	0	61.24%	0.10%	1.51%
京都	66,429	5,327	642	33	0	454	104	51	12.05%	0.05%	0.62%
兵庫	92,394	4,419	2,016	60	0	1,490	415	0	45.62%	0.06%	1.36%
奈良	236	24	11	0	0	5	6	0	45.83%	0.00%	0.00%
和歌山	17,433	1,216	650	18	1	378	182	54	53.45%	0.10%	1.48%
鳥取	42,572	2,622	1,719	55	6	1,151	507	0	65.56%	0.13%	2.10%
島根	38,491	1,896	1,185	39	6	647	381	112	62.50%	0.10%	2.06%
岡山	29,615	1,887	1,084	21	2	786	251	26	57.45%	0.07%	1.11%
広島	25,235	1,577	1,089	33	0	745	257	54	69.06%	0.13%	2.09%
山口	41,566	1,889	628	26	0	374	153	75	33.25%	0.06%	1.38%
徳島	23,629	1,976	1,046	19	3	726	262	36	52.94%	0.08%	0.96%
香川	14,690	860	713	40	1	529	143	0	82.91%	0.27%	4.65%
愛媛	64,914	3,930	2,926	76	4	1,970	814	62	74.45%	0.12%	1.93%
高知	64,369	2,889	1,854	106	8	1,260	497	0	64.17%	0.16%	3.67%
福岡	114,057	5,779	3,488	132	1	2,590	733	32	60.36%	0.12%	2.28%
佐賀	27,025	2,374	1,823	45	10	1,411	357	0	76.79%	0.17%	1.90%
長崎	33,221	2,045	1,408	47	3	1,008	350	0	68.85%	0.14%	2.30%
熊本	53,859	3,847	2,294	112	1	1,716	520	1	59.63%	0.21%	2.91%
大分	15,862	1,089	906	31	0	668	207	0	83.20%	0.20%	2.85%
宮崎	26,761	1,761	1,173	30	0	785	329	29	66.61%	0.11%	1.70%
鹿児島	61,801	3,989	3,112	90	1	2,461	560	0	78.01%	0.15%	2.26%
沖縄	37,358	2,113	1,046	49	8	680	261	48	49.50%	0.13%	2.32%
合計	2,199,623	132,823	86,485	3,246	242	59,124	22,123	1,810	65.11%	0.15%	2.44%

## 古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/jcs/>  
(ISDNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALLE BOOKS

お問合せ(株式会社バリューブックス): 0120-826-295  
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)